

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-54389

(P2001-54389A)

(43)公開日 平成13年2月27日 (2001.2.27)

(51)Int.Cl. <sup>1</sup>	識別記号	F I	テマコト <sup>2</sup> (参考)
C 12 N 15/09	Z NA	C 12 N 15/00	Z NAA 2 G 0 4 5
C 07 K 14/705		C 07 K 14/705	4 B 0 2 4
16/28		16/28	4 B 0 6 4
C 12 N 1/15		C 12 N 1/15	4 B 0 6 5
1/19		1/19	4 H 0 4 5

審査請求 未請求 請求項の数 7 OL (全 14 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平11-230777

(71)出願人 000006677

山之内製薬株式会社

東京都中央区日本橋本町2丁目3番11号

(22)出願日 平成11年8月17日 (1999.8.17)

(72)発明者 高崎 淳

茨城県つくば市御幸が丘21 山之内製薬株式会社内

(72)発明者 松本 光之

茨城県つくば市御幸が丘21 山之内製薬株式会社内

(74)代理人 100089200

弁理士 長井 省三 (外2名)

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 新規なG蛋白質共役型レセプター

(57)【要約】

【課題】創薬標的分子としての可能性が非常に高い、新規G蛋白質共役型レセプターファミリーをコードする遺伝子を単離・同定し、それらの活性を修飾する物質を探索するために必要となる組換え蛋白の提供。

【解決手段】中枢神経系に発現している新規なG蛋白質共役型レセプターをコードする遺伝子を単離し、全長ORF配列を決定して、該G蛋白質共役型レセプターファミリーを発現させた。該レセプターの遺伝子を含むベクター、該ベクターを含む宿主細胞、該宿主細胞を用いた同G蛋白質共役型レセプターファミリーの製造法、及び、該G蛋白質共役型レセプターファミリー及び該G蛋白質共役型レセプターファミリーを修飾する化合物、ペプチド及び抗体のスクリーニング法を提供する。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】配列番号2記載のアミノ酸配列を有するG蛋白質共役型レセプター、あるいは、該レセプターの同効物であるG蛋白質共役型レセプター。

【請求項2】請求項1記載のG蛋白質共役型レセプターのアミノ酸配列をコードする遺伝子。

【請求項3】請求項2記載の遺伝子を含むベクター。

【請求項4】請求項3記載のベクターを含む宿主細胞。

【請求項5】請求項4記載の宿主細胞を用いる請求の範囲1記載のG蛋白質共役型レセプターの製造方法。

【請求項6】請求項1記載のG蛋白質共役型レセプターに対する抗体。

【請求項7】請求項1記載のG蛋白質共役型レセプターと被験化合物とを接触させ、当該G蛋白質共役型レセプターの活性を修飾する物質をスクリーニングする方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明が属する技術分野】本発明は、遺伝子工学の分野に属し、新規G蛋白質共役型レセプター、該G蛋白質共役型レセプターをコードする遺伝子、該G蛋白質共役型レセプターの製造方法、該G蛋白質共役型レセプターに対する抗体、該G蛋白質共役型レセプターを用いたスクリーニング法に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】医学的に重要な生物学的プロセスの多くが、G蛋白質を含めたシグナル伝達経路に関与している蛋白質及び／またはセカンドメッセンジャーにより媒介されることはよく知られている (Lefkowitz, *Nature*, 1991, 351:353-354)。その中でも三量体型GTP結合蛋白質の活性化を介して細胞内にシグナルを伝達する細胞膜レセプター群は「G蛋白質共役型レセプター」と総称されている。こうした蛋白質の例として、アドレナリンやドーパミンの受容体(Kobilka, B.K.ら, *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 1987, 84:46-50; Kobilka, B.K.ら, *Science*, 1987, 238:650-656; Bunzow, J.R.ら, *Nature*, 1988, 336:783-787)などがある。今まで知られている全てのG蛋白質共役型レセプターはアミノ末端を細胞外、カルボキシル末端を細胞内とし、細胞膜を7回貫通する構造を共有するスーパーファミリーを形成していることから「7回膜貫通型レセプター」と総称される場合もある。G蛋白質共役型レセプターは様々な生理活性物質の情報を、三量体型GTP結合蛋白質の活性化、それにより引き起こされる細胞内セカンドメッセンジャーの変動を介して細胞膜から細胞内へと伝達する。三量体型GTP結合蛋白質により制御される細胞内セカンドメッセンジャーは、アデニレートシクラーゼを介するcAMP、フォスフォリバーゼCを介するCa<sup>++</sup>などがよく知られているが、三量体型GTP結合蛋白質を介したチャネルの制御、リン酸化酵素の活性化など多くの細胞蛋白がその標的となっていることが最近明らかとなってきた (Gudermann,

T. et al. (1997) *Annu. Rev. Neurosci.*, 20, 399-427)。G蛋白質共役型レセプターを介して情報を伝達する生理活性物質の中には、神経伝達物質、ホルモン、ケモカイン、脂質由来の情報伝達物質、2価イオン、プロテアーゼなど既存の生理活性物質の多くが含まれる。これら生理活性物質にはそれぞれ特異的なG蛋白質共役型レセプターが存在し、その情報を細胞内に伝達する。

【0003】G蛋白質共役型レセプターはそのスーパー

ファミリー内での構造類似性から遺伝子のクローニングが先行する場合も多く、内在性リガンドとの対応がとれていないレセプターはオーファンG蛋白質共役型レセプターと呼ばれている。一般的にオーファンG蛋白質共役型レセプターは特異的なリガンドが発見されていないため、そのアゴニスト、アンタゴニストを開発することは困難であった。しかし、近年、充実された化合物ライブラリーと高性能ハイスループットスクリーニングを組み合わせることで、オーファンG蛋白質共役型レセプターをターゲットとした薬剤の創製が提唱されている (Stadel, J. et al. (1997) *Trends Pharmacol. Sci.*, 18, 430-437)。

すなわち、多くのG蛋白質共役型レセプターのセカンドメッセンジャーとなっているcAMP、Ca<sup>++</sup>の測定、或いは、三量体型GTP結合蛋白質の活性化の指標となるGTPase活性、GTPγSのG蛋白質結合測定などをハイスループット化することで化合物ライブラリーからオーファンG蛋白質共役型レセプターに対するアゴニストをスクリーニングすることが可能であり、その化合物を利用した特異的なアゴニスト及びアンタゴニストの発見、ひいては特定の疾患治療薬の開発が可能であるということである。このような状況下では、新しい疾患の治療ターゲットとなり得る新規G蛋白質共役型レセプターの発見が、G蛋白質共役型レセプターに作用する薬剤創製の最も重要なステップと見なすことができる。

【0004】今までに数百種類のG蛋白質共役型レセプターが真核生物からクローニングされている。ヒトに関しては百種類以上の内在性リガンドとの対応がとれたG蛋白質共役型レセプターがクローニングされている。これまでにこれらの受容体をターゲットとする数百種類の疾患治療薬が利用されている (Wilson, J. et al. (1998) *British J. of Pharmacol.* 125, 1387-1392)。

40 G蛋白質共役型レセプターが標的となっている疾患は多岐にわたり、中枢神経系、循環器系、炎症免疫系、消化器系、運動器系、泌尿器生殖器系それぞれの分野でG蛋白質共役型レセプターに作用する有効な薬剤が存在する (Stadel, J. et al. (1997) *Trends Pharmacol. Sci.*, 18, 430-437)。このことはG蛋白質共役型レセプターのアゴニスト或いはアンタゴニストが疾患の治療剤となる可能性が高いことを示唆し、各種疾患を予防、改善、治療する上で重要な役割を果たすと考えられる新たな受容体を同定し、疾患との関わりを解明する必要がある。

50 【0005】この中で、特に中枢神経系は、神経伝達物

質に代表される生理活性物質を用いて様々な情報を伝達・制御しており、その情報の伝達・制御にG蛋白質共役型レセプターが重要な役割を果たしている。多くの種類のG蛋白質共役型レセプターが中枢神経系に存在しているため、それらは中枢神経系の疾患の重要な治療ターゲットとなっている。例えば、神経伝達物質ドーパミンのG蛋白質共役型レセプターは精神分裂病 (Seeman, P. et al. (1997) *Neuropsychopharmacology*, 16, 93-110)、セロトニンのG蛋白質共役型レセプターは鬱病 (Cowan, P. J. (1991) *Br. J. Psychiatry*, 159 (Suppl. 12), 7-14)、ニューロペプチドYのG蛋白質共役型レセプターは摂食障害 (Blomqvist, A. G. and Herzog, H. (1997) *Trends Neurosci.*, 20, 294-298) の治療ターゲットであると考えられている。また、G蛋白質共役型レセプターは炎症免疫系においても重要な役割を果たしている。炎症、免疫反応は生体への異物の進入や組織障害から自身を防御する為の有益な働きをしているが、一方で、その過剰な反応や異常な反応が炎症性疾患や自己免疫疾患などの原因ともなる (Gallin, J. I. et al. (1992) *Inflammation Basic Principles and Clinical Correlates* Raven Press (New York), Roitt, I.M. et al. (1993) *IMMUNOLOGY* Mosby-Year Book Europe Limited. (London))。これらの炎症免疫反応を惹起する物質の多くはメディエーターと呼ばれている。メディエーターのなかでもプロスタグランジン、ロイコトリエン、血小板活性化因子、ケモカイン、ブラジキニン、アナフィラトキシンなどのG蛋白質共役型レセプターを介して働くものの多くが炎症、免疫の異常に起因する疾患 (例えば、喘息、アレルギー、リウマチ性関節炎、炎症性腸疾患、感染症など) の治療ターゲットとして考えられている (Halushka, P. V. et al. (1989) *Annu. Rev. Pharmacol. Toxicol.* 29, 213-239, Hosford, D. et al. (1990) *Prog. Med. Chem.* 27, 325-380, Oppenheim, J. J. et al. (1991) *Annu. Rev. Immunol.* 9, 617-648)。免疫、炎症反応を司る白血球の機能は、ケモカイン、アナフィラトキシン、PAFやエイコサノイドなどの脂質代謝物、などの受容体であるG蛋白質共役型レセプターによって制御されている。また、白血球の産生するPAFやエイコサノイドなどの脂質代謝物は白血球周囲の組織の受容体を介して修飾を受ける (麻生芳郎 訳、一目でわかる免疫学(1993)、メディカル・サイエンス・インターナショナル発行、62-73; Proost, P. et al. (1996) *Int. J. Clin. Lab. Res.* 26, 211-23, Scott, D. T. et al. (1994) *Gen. Pharmacol.* 25, 1285-96)。このようしたことから、ケモカイン、アナフィラトキシン、PAFやエイコサノイドのG蛋白質共役型レセプターは免疫、炎症の異常に起因する疾患の治療ターゲットであると考えられている。しかしながら、中枢神経系の疾患及び/または免疫炎症の異常に起因する疾患 (これらに限らない) に関するG蛋白質共役型レセプターとそれに作用

する分子について全てが理解されたわけではない。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 G蛋白質共役型レセプターが標的となっている疾患、特に中枢神経系の疾患 (精神分裂病、パーキンソン病、疼痛) の予防・治療剤の開発に必要な、新規なG蛋白質共役型レセプターファミリーをコードする遺伝子を単離・同定し、該レセプターの発現生産系の構築、該レセプター活性を修飾する物質を探索する為の組み換え蛋白を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】 このような状況下、本発明者は鋭意研究を重ねた結果、中枢神経系に関与する部位に発現している新規G蛋白質共役型レセプターをコードする遺伝子を単離することに成功し、その全長ORF (open reading frame) を決定した。さらに、新規G蛋白質共役型レセプターを発現させ、組み換え蛋白の生産を可能にし、該遺伝子を含むベクター、該ベクターを含む宿主細胞、該宿主細胞を用いた同G蛋白質共役型レセプター、該G蛋白質共役型レセプターに対する抗体の製造法を確立した。これにより、該G蛋白質共役型レセプター及び該G蛋白質共役型レセプター活性を修飾する物質のスクリーニングを可能にし、本発明を完成した。

【0008】 即ち本発明は、(1) 配列番号2記載のアミノ酸配列を有するG蛋白質共役型レセプター、あるいは、該レセプターの同効物であるG蛋白質共役型レセプター、(2) (1) 記載のG蛋白質共役型レセプターのアミノ酸配列をコードする遺伝子、(3) (2) 記載の遺伝子を含むベクター、(4) (3) 記載のベクターを含む宿主細胞、(5) (4) 記載の宿主細胞を用いる(1)に記載のG蛋白質共役型レセプターの製造方法、(6) (1) 記載のG蛋白質共役型レセプターに対する抗体、(7) (1) に記載のG蛋白質共役型レセプターと被験化合物とを接触させ、当該G蛋白質共役型レセプターの活性を修飾する物質をスクリーニングする方法、に関する。

【0009】

【発明の実施の形態】 以下、本発明で使用される用語について説明する。本明細書で使用される「G蛋白質共役型レセプター」は「G蛋白質共役型レセプター蛋白」を表す。本発明のG蛋白質共役型レセプターの「同効物」とは、配列番号2記載のアミノ酸配列中のいずれかの1乃至複数個の部位において、1乃至数個のアミノ酸残基が置換、欠失、及び/または挿入されていてもよく、かつ該G蛋白質共役型レセプターと同一の活性を示すG蛋白質共役型レセプターをいう。好ましくは配列番号2記載のアミノ酸配列において1乃至10個、更に好ましくは1乃至7個、特に好ましくは1乃至5個のアミノ酸でアミノ酸の置換、欠失または挿入があるアミノ酸配列を有し、かつ、配列番号2記載のアミノ酸配列で示される

蛋白質と同一の活性を有するG蛋白質共役型レセプター蛋白質であり、配列番号2記載のアミノ酸配列を有するポリペプチドが最適である。

【0010】また、本発明の新規G蛋白質共役型レセプター蛋白質をコードする塩基配列を有する遺伝子は、配列番号2記載のアミノ酸配列で示されるG蛋白質共役型レセプター蛋白質、あるいは、それらの同効物をコードする塩基配列を有する遺伝子なら何れでもよい。好ましくは、配列番号2記載のアミノ酸配列をコードする塩基配列を有する遺伝子である。さらに好ましくは、配列番号1記載の塩基配列の1番目から1002番目を有する遺伝子である。

【0011】(製造法) 本発明のG蛋白質共役型レセプターをコードする遺伝子、本発明のベクター、本発明の宿主細胞、本発明のG蛋白質共役型レセプター、本発明のG蛋白質共役型レセプターの活性を修飾する物質のスクリーニング方法、G蛋白質共役型レセプターに反応する抗体の製造方法は、以下1)～4)に記載する。

【0012】1) 新規G蛋白質共役型レセプター遺伝子の製造方法

a) 第1製造法

本発明のG蛋白質共役型レセプターを產生する能力を有するヒト細胞あるいは組織からmRNAを抽出する。次いでこのmRNAを鑄型として該G蛋白質共役型レセプターmRNAまたは一部のmRNA領域をはさんだ2種類のプライマーを作製する。denature温度、変性剤添加条件などを改良し、本発明の配列番号2で表されるアミノ酸配列の一部を含む蛋白質に適した逆転写酵素-ポリメラーゼ連鎖反応(以下RT-PCRという)を行うことにより、該G蛋白質共役型レセプターcDNAまたはその一部を得ることができる。さらに、得られたG蛋白質共役型レセプターcDNAまたはその一部を適当な発現ベクターに組み込むことにより、宿主細胞で発現させ、該レセプターを製造することができる。まず、本発明のG蛋白質共役型レセプターの產生能力を有する細胞あるいは組織、例えばヒト脾臓から該レセプターをコードするものを包含するmRNAを既知の方法により抽出する。抽出法としては、グアニジン・チオシアネット・ホット・フェノール法、グアニジン・チオシアネット-グアニジン・塩酸法等が挙げられるが、好ましくはグアニジン・チオシアネット塩化セシウム法が挙げられる。該レセプターの產生能力を有する細胞あるいは組織は、該レセプターをコードする塩基配列を有する遺伝子あるいはその一部を用いたノーザン・ブロッティング法、該レセプターに特異的な抗体を用いたウエスタン・ブロッティング法などにより特定することができる。

【0013】mRNAの精製は常法に従えばよく、例えばmRNAをオリゴ(dT)セルロースカラムに吸着・溶出させ、精製することができる。さらに、ショ糖密度勾配遠心法等によりmRNAをさらに分画することもできる。ま

た、mRNAを抽出せずとも、市販されている抽出済mRNAを用いても良い。次に、精製されたmRNAをランダムプライマー又はオリゴdTプライマーの存在下で、逆転写酵素反応を行い第1鎖cDNAを合成する。この合成は常法によって行うことができる。得られた第1鎖cDNAを用い、目的遺伝子の一部の領域をはさんだ2種類のプライマーを用いてPCRに供し、目的とする新規G蛋白質共役型レセプターDNAを増幅する。得られたDNAをアガロースゲル電気泳動等により分画する。所望により、上記DNAを制限酸素等で切断し、接続することによって目的とするDNA断片を得ることもできる。

【0014】b) 第2製造法

本発明の遺伝子は上述の製造法の他、常法の遺伝子工学的手法を用いて製造することもできる。まず、前述の方法で得たmRNAを鑄型として逆転写酵素を用いて1本鎖cDNAを合成した後、この1本鎖cDNAから2本鎖cDNAを合成する。その方法としてはS1ヌクレアーゼ法(Efstratiadis, A. et al. (1976) Cell, 7, 279-288)、Land法(Land, H. et al. (1981) Nucleic Acids Res., 9, 2251-2266)、O. Joon Yoo法(Yoo, O. J. et al. (1983) Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 79, 1049-1053)、Okayama-Berg法(Okayama, H. and Berg, P. (1982) Mol. Cell. Biol., 2, 161-170)などが挙げられる。次に、上述の方法で得られる組換えプラスミドを大腸菌、例えばDH5 $\alpha$ 株に導入して形質転換させて、テトラサイクリン耐性あるいはアンピシリン耐性を指標として組換え体を選択することができる。宿主細胞の形質転換は、例えば、宿主細胞が大腸菌の場合にはHanahanの方法(Hanahan, D. (1983) J. Mol. Biol., 166, 557-580)、すなわちCaCl<sub>2</sub>やMgCl<sub>2</sub>またはRbClを共存させて調製したコンピテント細胞に該組換えDNA体を加える方法により実施することができる。なお、ベクターとしてはプラスミド以外にもラムダ系などのファージベクターも用いることができる。

【0015】上記により得られる形質転換株から、目的の新規G蛋白質共役型レセプターのDNAを有する株を選択する方法としては、例えば以下に示す各種方法を採用できる。

① 合成オリゴヌクレオチドプローブを用いるスクリーニング法

本発明のG蛋白質共役型レセプターの全部または一部に対応するオリゴヌクレオチドを合成し(この場合コドン使用頻度を用いて導いたヌクレオチド配列または考えられるヌクレオチド配列を組合せた複数個のヌクレオチド配列のどちらでもよく、また後者の場合、イノシンを含ませてその種類を減らすこともできる)、これをプローブ(<sup>32</sup>P又は<sup>33</sup>Pで標識する)として、形質転換株のDNAを変性固定したニトロセルロースフィルターとハイブリダイズさせ、得られたポジティブ株を検索して、これを選択する。

② ポリメラーゼ連鎖反応により作製したプローブを用

## いるスクリーニング法

本発明のG蛋白質共役型レセプター蛋白質の一部に対応するセンスプライマーとアンチセンスプライマーのオリゴヌクレオチドを合成し、これらを組合せてポリメラーゼ連鎖反応(Saiki, R. K. et al. (1988) *Science* 239, 487-491)を行い、目的のG蛋白質共役型レセプター蛋白質の全部又は一部をコードするDNA断片を増幅する。ここで用いる錆型DNAとしては、該G蛋白質共役型レセプター蛋白質を產生する細胞のmRNAより逆転写反応にて合成したcDNA、またはゲノムDNAを用いることができる。このようにして調製したDNAを断片を<sup>32</sup>P又は<sup>33</sup>Pで標識し、これをプローブとして用いてコロニーハイブリダイゼーションまたはブラークハイブリダイゼーションを行うことにより目的のクローンを選択する。

【0016】③ 他の動物細胞で新規G蛋白質共役型レセプター蛋白質を產生させてスクリーニングする方法  
形質転換株を培養し、遺伝子を増幅させ、その遺伝子を動物細胞にトランスフェクトし(この場合、自己複製可能で転写プロモーター領域を含むプラスミドもしくは動物細胞の染色体に組み込まれ得るようなプラスミドのいずれでもよい)、遺伝子にコードされた蛋白を細胞表面に產生させる。本発明のG蛋白質共役型レセプター蛋白質に対する抗体を用いて該蛋白質を検出することにより、元の形質転換株より目的のG蛋白質共役型レセプター蛋白質をコードするcDNAを有する株を選択する。

④ 本発明のG蛋白質共役型レセプター蛋白質に対する抗体を用いて選択する方法

あらかじめ、cDNAを発現ベクターに組込み、形質転換株表面で蛋白を產生させ、本発明のG蛋白質共役型レセプター蛋白質に対する抗体および該抗体に対する2次抗体を用いて、所望のG蛋白質共役型レセプター蛋白質產生株を検出し、目的の株を選択する。

⑤ セレクティブ・ハイブリダイゼーション・トランスレーションの系を用いる方法

形質転換株から得られるcDNAを、ニトロセルロースフィルター等にプロットし本発明のG蛋白質共役型レセプター蛋白質產生細胞からのmRNAをハイブリダイズさせた後、cDNAに結合したmRNAを解離させ、回収する。回収されたmRNAを蛋白翻訳系、例えばアフリカツメガエルの卵母細胞への注入や、ウサギ網状赤血球ライゼートや小麦胚芽等の無細胞系で蛋白を翻訳させる。本発明のG蛋白質共役型レセプター蛋白質に対する抗体を用いて検出して、目的の株を選択する。得られた目的の形質転換株より本発明のG蛋白質共役型レセプターをコードするDNAを採取する方法は、公知の方法(Maniatis, T. et al. (1982): "Molecular Cloning-A Laboratory Manual" Cold Spring Harbor Laboratory, NY)に従い実施できる。例えば細胞よりプラスミドDNAに相当する画分を分離し、該プラスミドDNAよりcDNA領域を切り出すことにより行なうことができる。

## 【0017】c) 第3製造法

本発明のG蛋白質共役型レセプター遺伝子は、化学合成法によって製造したDNA断片を結合することによっても製造できる。各DNAは、DNA合成機(例えば、Oligo 1000 M DNA Synthesizer(Beckman社)、あるいは、394 DNA/RNA Synthesizer(Applied Biosystems社)など)を用いて合成することができる。

## 【0018】d) 第4製造法

本発明のG蛋白質共役型レセプター遺伝子は、G蛋白質共役型レセプターの情報に基づいて、例えばホスファイト・トリエステル法(Hunkapiller, M. et al. (1984) *Nature*, 310, 105-111)等の常法に従い、核酸の化学合成により製造することもできる。なお、所望アミノ酸に対するコドンはそれ自体公知であり、その選択も任意でよく、例えば利用する宿主のコドン使用頻度を考慮して常法に従い決定できる(Crantham, R. et al. (1981) *Nucleic Acids Res.*, 9 r43-r74)。さらに、これら塩基配列のコドンの一部改変は、常法に従い、所望の改変をコードする合成オリゴヌクレオチドからなるプライマーを利用したサイトスペシフィック・ミュータジェネシス(site specific mutagenesis)(Mark, D. F. et al. (1984) *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 81, 5662-5666)等に従うことができる。以上、a)乃至d)により得られるDNAの配列決定は、例えばマキサム-ギルバートの化学修飾法(Maxam, A. M. and Gilbert, W. (1980): "Methods in Enzymology" 65, 499-559)やM13を用いるジデオキシヌクレオチド鎖終結法(Messing, J. and Vieira, J (1982) *Gene*, 19, 269-276)等により行なうことができる。

【0019】2) 本発明のG蛋白質共役型レセプターの組み換え蛋白質の製造方法

単離された本発明のG蛋白質共役型レセプターをコードする遺伝子を含む断片は、適当なベクターDNAに再び組込むことにより、真核生物及び原核生物の宿主細胞を形質転換させることができる。さらに、これらのベクターに適当なプロモーターおよび形質発現にかかる配列を導入することにより、それぞれの宿主細胞において遺伝子を発現させることができる。例えば、真核生物の宿主細胞には、脊椎動物、昆虫、酵母等の細胞が含まれ、脊椎動物細胞としては、例えばサルの細胞であるCOS細胞(Gluzman, Y. (1981) *Cell*, 23, 175-182)やチャイニーズ・ハムスター卵巣細胞(CHO)のジヒドロ葉酸レダクターゼ欠損株(Urlaub, G. and Chasin, L. A. (1980) *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 77, 4216-4220)、ヒト胎児腎臓由来HEK293細胞および同細胞にEpsteinBarr VirusのEBNA-1遺伝子を導入した293-EBNA細胞(Invitrogen社)等がよく用いられているが、これらに限定されるわけではない。脊椎動物細胞の発現ベクターとしては、通常発現しようとする遺伝子の上流に位置するプロモーター、RNAのスプライス部位、ポリアデニル化部

位および転写終結配列等を有するものを使用でき、これはさらに必要により複製起点を有してもよい。該発現ベクターの例としては、SV40の初期プロモーターを有するpSV2dhfr (Subramani, S. et al. (1981) Mol. Cell Biol., 1, 854-864)、ヒトのelongation factorプロモーターを有するpEF-BOS (Mizushima, S. and Nagata, S. (1990) Nucleic Acids Res., 18, 5322)、cytomegalovirusプロモーターを有するpCEP4 (Invitrogen社) 等を例示できるが、これに限定されない。

【0020】宿主細胞として、COS細胞を用いる場合を例に挙げると、発現ベクターとしては、SV40複製起点を有し、COS細胞において自律増殖が可能であり、さらに転写プロモーター、転写終結シグナルおよびRNAスプライス部位を備えたものを用いることができ、例えば、pME18S、(Maruyama, K. and Takebe, Y. (1990) Med. Immunol., 20, 27-32)、pEF-BOS (Mizushima, S. and Nagata, S. (1990) Nucleic Acids Res., 18, 5322)、pCDM8 (Seed, B. (1987) Nature, 329, 840-842)等が挙げられる。該発現ベクターはDEAE-デキストラン法 (Luthman, H. and Magnusson, G. (1983) Nucleic Acids Res., 11, 1295-1308)、リン酸カルシウム-DNA共沈殿法 (Graham, F. L. and van der Ed, A. J. (1973) Virology, 52, 456-457)、FuGENE6 (Boehringer Mannheim社) を用いた方法、および電気パスル穿孔法 (Neumann, E. et al. (1982) EMBO J., 1, 841-845)等によりCOS細胞に取り込ませることができ、かくして所望の形質転換細胞を得ることができる。また、宿主細胞としてCHO細胞を用いる場合には、発現ベクターと共に、G418耐性マーカーとして機能するneo遺伝子を発現し得るベクター、例えばpRSVneo (Sambrook, J. et al. (1989): "Molecular Cloning-A Laboratory Manual" Cold Spring Harbor Laboratory, NY) やpSV2-neo (Southern, P. J. and Berg, P. (1982) J. Mol. Appl. Genet., 1, 327-341)等をコ・トランスフェクトし、G418耐性のコロニーを選択することにより新規G蛋白質共役型レセプターを安定に產生する形質転換細胞を得ることができる。また、宿主細胞として293-EBNA細胞を用いる場合には、Epstein Barr Virusの複製起点を有し、293-EBNA細胞で自己増殖が可能なpCEP4 (Invitrogen社) などの発現ベクターを用いて所望の形質転換細胞を得ることができる。

【0021】上記で得られる所望の形質転換体は、常法に従い培養することができ、該培養により細胞内または細胞表面に本発明のG蛋白質共役型レセプターが生産される。該培養に用いられる培地としては、採用した宿主細胞に応じて慣用される各種のものを適宜選択でき、例えば上記COS細胞であればRPMI-1640培地やダルベッコ修正イーグル最小必須培地 (DMEM) 等の培地に必要に応じ牛胎児血清 (FBS) 等の血清成分を添加したものを使用できる。また、上記293-EBNA細胞であれば牛胎児血清 (FBS) 等の血清成分を添加したダルベッコ修正イーグル最小必

須培地 (DMEM) 等の培地にG418を加えたものを使用できる。上記により、形質転換体の細胞内または細胞表面に生産される本発明のG蛋白質共役型レセプターは、該レセプターの物理的性質や化学的性質等を利用した各種の公知の分離操作法により、それらより分離・精製することができる。該方法としては、具体的には例えば該レセプターを含む膜分画を可溶化した後、通常の蛋白沈殿剤による処理、限外済過、分子ふるいクロマトグラフィー (ゲル済過)、吸着クロマトグラフィー、イオン交換体

10 クロマトグラフィー、アフィニティクロマトグラフィー、高速液体クロマトグラフィー (HPLC) 等の各種液体クロマトグラフィー、透析法、これらの組合せ等を例示できる。なお、膜分画は常法に従って得ることができる。例えば本発明のG蛋白質共役型レセプターを表面に発現した細胞を培養し、これらをバッファーに懸濁後、ホモジナイズし遠心分離することにより得られる。また、できるだけ緩和な可溶化剤 (CHAPS、Triton X-100、ジキトニン等) でG蛋白質共役型レセプター蛋白質を可溶化することにより、可溶化後もレセプターの特性を保持することができる。

【0022】本発明のG蛋白質共役型レセプターはマーカー配列とインフレームで融合して発現させることで、該G蛋白質共役型レセプター蛋白質の発現の確認、細胞内局在の確認、精製等が可能になる。マーカー配列としては、例えば、FLAG epitope、Hexa-Histidine tag、Hemagglutinin tag、myc epitopeなどがある。また、マーカー配列と該G蛋白質共役型レセプター蛋白質の間にエンテロキナーゼ、ファクターXa、トロンビンなどのプロテアーゼが認識する特異的な配列を挿入することにより、マーカー配列部分をこれらのプロテアーゼにより切断除去する事が可能である。例えば、ムスカリニアセチルコリン受容体とHexa-Histidine tagとをトロンビン認識配列で連結した報告がある (Hayashi, M. K. and Haga, T. (1996) J. Biochem., 120, 1232-1238)

【0023】3) 本発明のG蛋白質共役型レセプターの活性を修飾する物質 (化合物、ペプチド及び抗体) のスクリーニング方法

本発明のスクリーニング法は、前記により構築されたG蛋白質共役型レセプターを用いて、該G蛋白質共役型レセプターの生理学的な特性に応じたG蛋白質共役型レセプターの修飾の指標を測定する系に被験物質を添加し、該指標を測定する手段を含む。該測定系は、具体的には、以下のスクリーニング方法a)~d)が挙げられる。また、被験物質は従来G蛋白質共役型レセプターリガンド活性を有することは知られているが該新規G蛋白質共役型レセプターの活性に対して選択的に修飾するか不明な化合物またはペプチド、あるいはケミカルファイルに登録されている種々のG蛋白質共役型レセプターリガンド活性については不明の公知化合物やペプチド、コンビナトリアル・ケミストリー技術 (Terrett, N. K., et al.

11

(1995) *Tetrahedron*, 51, 8135-8137) によって得られた化合物群やファージ・ディスプレイ法 (Felici, F., et al. (1991) *J. Mol. Biol.*, 222, 301-310) などを応用して作成されたランダム・ペプチド群を用いることができる。また、微生物の培養上清や、植物、海洋生物由来の天然成分、動物組織抽出物などもスクリーニングの対象となる。あるいは本発明のスクリーニング法により選択された化合物またはペプチドを化学的または生物学的に修飾した化合物またはペプチドを用いる。

【0024】a) リガンド結合アッセイ法を利用したスクリーニング方法

本発明のG蛋白質共役型レセプターに結合する化合物、ペプチド及び抗体（総称してリガンド）はリガンド結合アッセイ法によりスクリーニングすることができる。該レセプターを発現させた細胞膜、あるいは該レセプター精製標品を調製し、リガンド結合アッセイ用に精製されたリガンドを放射性標識（50-2000 Ci/mmol）する。緩衝液、イオン、pHのようなアッセイ条件を最適化し、最適化したバッファー中に同レセプターを発現させた細胞膜、あるいは該レセプター精製標品を放射性標識したリガンドと共に一定時間インキュベーションする。反応後、ガラスフィルター等で沪過し適量のバッファーで洗浄した後、フィルターに残存する放射活性を液体シンチレーションカウンター等で測定する（全結合量）。放射性標識していないリガンドを上記反応液中に大過剰加えることにより非特異的結合量を測定し、全結合量から非特異的結合量を差し引くことにより特異的結合量がえられる。該レセプター蛋白質を発現させた細胞膜、あるいは該レセプター蛋白質精製標品に対して特異的結合を示したリガンドを本発明のG蛋白質共役型レセプターに対するリガンドとして選択することができる。また、得られた放射活性リガンドの結合阻害を指標に該G蛋白質共役型レセプターのアゴニスト活性を有する化合物、ペプチド及び抗体、アンタゴニスト活性を有する化合物、ペプチド及び抗体をスクリーニングすることができる。

【0025】b) GTP $\gamma$ S結合法を利用したスクリーニング方法

本発明のG蛋白質共役型レセプターの活性を修飾する化合物、ペプチド及び抗体はGTP $\gamma$ S結合法によりスクリーニングすることが可能である (Lazareno, S. and Birdsall, N.J.M. (1993) *Br. J. Pharmacol.* 109, 1120-1127)。該レセプターを発現させた細胞膜を20 mM HEPES (pH 7.4), 100 mM NaCl, 10 mM MgCl<sub>2</sub>, 50 mM GDP溶液中で、<sup>35</sup>Sで標識されたGTP $\gamma$ S 400 pMと混合する。被検薬存在下と非存在下でインキュベーション後、ガラスフィルター等で沪過し、結合したGTP $\gamma$ Sの放射活性を液体シンチレーションカウンター等で測定する。被検薬存在下における特異的なGTP $\gamma$ S結合の上昇を指標に、該G蛋白質共役型レセプターのアゴニスト活性を有する化合物、ペプチド及び抗体をスクリーニングすることができる。

12

また、得られたアゴニスト活性を有する化合物、ペプチド及び抗体によるGTP $\gamma$ S結合上昇の抑制を指標に該G蛋白質共役型レセプターのアンタゴニスト活性を有する化合物、ペプチド及び抗体をスクリーニングすることができる。

【0026】c) 細胞内Ca<sup>++</sup>およびcAMP濃度の変動を利用したスクリーニング方法

多くのG蛋白質共役型レセプターはアゴニスト刺激で細胞内のCa<sup>++</sup>の上昇および/またはcAMP濃度の上昇または低下を引き起こす。ゆえに本発明のG蛋白質共役型レセプターの活性を修飾する化合物、ペプチド及び抗体は細胞内Ca<sup>++</sup>またはcAMP濃度の変動を利用してスクリーニングすることが可能である。Ca<sup>++</sup>濃度の測定はfura2等を用い、cAMP濃度の測定は市販のcAMP測定キット (Amersham社等) を用いて測定する。また、Ca<sup>++</sup>およびcAMP濃度に依存して転写量が調節される遺伝子の転写活性を検出することにより間接的にCa<sup>++</sup>およびcAMP濃度を測定することが可能である。該レセプターを発現させた細胞とレセプターを発現させていない宿主細胞（コントロール細胞）に化合物、ペプチド、組織抽出物等を一定時間作用させ、Ca<sup>++</sup>およびcAMP濃度を直接あるいは間接的に測定する。コントロール細胞と比較して、該レセプターを発現させた細胞特異的なCa<sup>++</sup>の上昇および/またはcAMP濃度の上昇または低下を指標にアゴニスト活性を有する化合物、ペプチド及び抗体をスクリーニングすることができる。また、得られたアゴニスト活性を有する化合物、ペプチド及び抗体によるCa<sup>++</sup>の上昇および/またはcAMP濃度の上昇または低下を指標に該G蛋白質共役型レセプターのアンタゴニスト活性を有する化合物、ペプチド及び抗体をスクリーニングすることができる。

【0027】d) マイクロフィジオメーターを用いたスクリーニング方法

細胞が様々なシグナル応答を行う場合、細胞外への微少な水素イオンの流出が検出される。この水素イオンの流出は、その大部分が、細胞が応答するためのエネルギーを得るための燃料消費で生ずる代謝産物の増加、または細胞のシグナルが直接水素イオンポンプに伝達する場合に生ずる。本発明のG蛋白質共役型レセプターは、そのシグナル伝達にエネルギーを必要とするため、レセプターの活性化の際には水素イオンの流出が起こる。CYTOSCREENマイクロフィジオメーター (Molecular Devices社) により、このような細胞近傍の培地中の微少な水素イオンの流出によるpH変化が検出可能であることから、このようなエネルギーを消費する受容体の活性化の検出に利用できる。該レセプターを発現させた細胞とレセプターを発現させていない宿主細胞（コントロール細胞）に化合物、ペプチド、組織抽出物等を一定時間作用させ、水素イオンの流出によるpH変化を測定する。コントロール細胞と比較して、該レセプターを発現させた細胞特異的な水素イオンの流出によるpH変化を指標にアゴニ

スト活性を有する化合物、ペプチド及び抗体をスクリーニングすることができる。また、得られたアゴニスト活性を有する化合物、ペプチド及び抗体による水素イオンの流出によるpH変化を指標に該G蛋白質共役型レセプターのアンタゴニスト活性を有する化合物、ペプチド及び抗体をスクリーニングすることができる。

【0028】4) 本発明のG蛋白質共役型レセプターに反応する抗体の作成方法

本発明のG蛋白質共役型レセプターに反応する抗体、例えばポリクローナル抗体、モノクローナル抗体、は各種動物に該新規G蛋白質共役型レセプターや該G蛋白質共役型レセプターの断片を直接投与することで得ることができる。また、本発明G蛋白質共役型レセプターをコードする遺伝子を導入したプラスミドを用いてDNAワクチン法 (Raz, E. et al. (1994) Proc. Natl. Acad. Sci. U S A, 91, 9519-9523; Donnelly, J. J. et al. (1996) J. Infect. Dis., 173, 314-320) によっても得ることができる。ポリクローナル抗体は該G蛋白質共役型レセプターまたはその断片をフロイント完全アジュバントなどの適当なアジュバントに乳濁し、腹腔、皮下または静脈等に免疫して感作した動物、例えばウサギ、ラット、ヤギ、またはニワトリ等の血清または卵から製造される。このように製造された血清または卵からポリクローナル抗体は常法の蛋白質単離精製法により分離精製することができ、常法の蛋白質単離精製法としては例えば、遠心分離、透析、硫酸アンモニウムによる塩析、DEAE-セルロース、ハイドロキシアパタイト、プロテインAアガロース等によるクロマトグラフィー法が挙げられる。

【0029】モノクローナル抗体は、ケーラーとミルステインの細胞融合法 (Kohler, G. and Milstein, C. (1975) Nature, 256, 495-497) により当業者が容易に製造することが可能である。すなわち、本発明G蛋白質共役型レセプターまたはその断片をフロイント完全アジュバントなどの適当なアジュバントに乳濁した乳濁液を数週間おきにマウスの腹腔、皮下または静脈に数回繰り返し接種することにより免疫する。最終免疫後、脾臓細胞を取り出し、ミエローマ細胞と融合してハイブリドーマを作製する。ハイブリドーマを得るためのミエローマ細胞としては、ヒポキサンチングアニーホスホリボシルトランスフェラーゼ欠損やチミジンキナーゼ欠損のようなマーカーを持つミエローマ細胞、例えば、マウスミエローマ細胞株P3X63Ag8. U1、を利用する。また、融合剤としてはポリエチレングリーコールを利用する。さらにはハイブリドーマ作製における培地として、イーグル氏最小必須培地、ダルベッコ氏変法最小必須培地、RPMI-1640などの通常よく用いられているものに適宜10~30%の牛胎児血清を加えて用いる。融合株はHAT選択法により選択する。ハイブリドーマのスクリーニングは培養上清を用い、ELISA法、免疫組織染色法などの周知の方法または前記のスクリーニング法により行い、目的の抗

体を分泌しているハイブリドーマのクローンを選択する。また、限界希釈法によって、サブクローニングを繰り返すことによりハイブリドーマの単クローン性を保証する。このようにして得られるハイブリドーマは培地中で2~4日間、あるいはプリスタンで前処理したBALB/c系マウスの腹腔内で10~20日培養することで精製可能な量の抗体が産生される。このように製造されたモノクローナル抗体は培養上清あるいは腹水から常法の蛋白質単離精製法により分離精製することができる。また、モノ

10 クローナル抗体またはその一部分を含む抗体断片は該抗体をコードする遺伝子の全部または一部を発現ベクターに組み込み、大腸菌、酵母、または動物細胞に導入して生産させることもできる。

【0030】以上のように分離精製された抗体につき、常法により、ペプシン、パパイン等の蛋白質分解酵素によって消化を行い、引き続き常法の蛋白質単離精製法により分離精製することで、活性のある抗体の一部分を含む抗体断片、例えば、 $F(ab')_2$ 、Fab、Fab'、Fvを得ることができる。さらには、本発明G蛋白質共役型レセプターに反応する抗体を、クラクソンらやゼベデラの方法

(Clackson, T. et al. (1991) Nature, 352, 624-628; Zebedee, S. et al. (1992) Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 89, 3175-3179) によりsingle chain FvやFabとして得ることも可能である。また、マウスの抗体遺伝子をヒト抗体遺伝子に置き換えたトランスジェニックマウス (Lonberg, N. et al. (1994) Nature, 368, 856-859) に免疫することでヒト抗体を得ることも可能である。

【0031】本発明には、G蛋白質共役型レセプター蛋白質または前記スクリーニング法により選択されたG蛋白質共役型レセプター蛋白質の活性を有意に修飾する物質を有効成分とする医薬が含まれる。本発明のG蛋白質共役型レセプター活性修飾化合物、ペプチド、抗体または抗体断片を有効成分とする製剤は、該有効成分のタイプに応じて、それらの製剤化に通常用いられる担体や賦形剤、その他の添加剤を用いて調製されうる。投与は錠剤、丸剤、カプセル剤、顆粒剤、細粒剤、散剤、経口用液剤などによる経口投与、あるいは静注、筋注などの注射剤、坐剤、経皮投与剤、経粘膜投与剤などによる非経口投与が挙げられる。特に胃で消化されるペプチドにあっては静注等の非経口投与が望まれる。

【0032】本発明による経口投与のための固体組成物は、一つ又はそれ以上の活性物質が少なくとも一つの不活性な希釈剤、例えば乳糖、マンニトール、ブドウ糖、微結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、デンプン、ポリビニルピロリドン、メタケイ酸アルミン酸マグネシウムなどと混合される。組成物は常法に従って、不活性な希釈剤以外の添加剤、例えば滑沢剤、崩壊剤、安定化剤、溶解乃至溶解補助剤などを含有していくよい。錠剤や丸剤は必要により糖衣又は胃溶性若しくは腸溶性物質などのフィルムで被覆していてもよい。経

口のための液体組成物は、乳濁剤、溶液剤、懸濁剤、シリップ剤、エリキシル剤を含み、一般的に用いられる不活性な希釈剤、例えば精製水、エタノールを含む。該組成物は不活性な希釈剤以外の添加剤、例えば湿润剤、懸濁剤、甘味剤、芳香剤、防腐剤を含有していてもよい。非経口のための注射剤としては、無菌の水性または非水性の溶液剤、懸濁剤、乳濁剤を含む。水溶性の溶液剤や懸濁剤には、希釈剤として例えば注射用蒸留水、生理用食塩水などが含まれる。非水溶性の溶液剤、懸濁剤の希釈剤としてはプロピレングリコール、ポリエチレングリコール、オリーブ油のような植物油、エタノールのようなアルコール類、ポリソルベート80等を含む。該組成物はさらに湿润剤、乳化剤、分散剤、安定化剤、溶解乃至溶解補助剤、防腐剤などを含んでいてもよい。組成物は例えばバクテリア保留フィルターを通す済過、殺菌剤の配合、または照射によって無菌化される。また、無菌の固体組成物を製造し、使用に際し無菌水その他の無菌用注射用媒体に溶解し使用することもできる。投与量は前記スクリーニング法により選択された有効成分の活性の強さ、症状、投与対象の年齢、性別等を考慮して適宜決定される。

## 【0033】

【実施例】以下、本発明を更に具体的に開示するためには、実施例を記載するが、本発明は実施例に限定されるものではない。なお、特に断りがない場合は、公知の方法 (Maniatis, T. et al. (1982) : "Molecular Cloning - A Laboratory Manual" Cold Spring Harbor Laboratory, NY) に従って実施可能である。

## (実施例1) 新規G蛋白質共役型レセプターをコードする遺伝子の単離

本発明のG蛋白質共役型レセプター蛋白質HORK1をコードする全長cDNAは、ヒト脾臓由来のpoly A+ RNA (Clontech社製) をtemplateとしてRT-PCRにより取得した。配列番号3で示されるオリゴヌクレオチドをforward primerとして、配列番号4で示されるオリゴヌクレオチドをreverse primerとして用いた(それぞれの5'末端にはXbaI siteが付加してある)。RT-PCRはPyrobest DNA polymerase (宝酒造社製) を用い5% DMSO存在下で98 °C (10秒) / 58 °C (30秒) / 72 °C (2分) のサイクルを34回繰り返した。その結果、約1.0 kbpのDNA断片が増幅された。この断片をXbaIで消化した後、pEF-BOS plasmid (Mizushima, S. and Nagata, S. (1990) Nucleic Acids Res., 18, 5322) を用いてクローニングした。得られたクローンの塩基配列はジテオキシターミネーター法により ABI377 DNA Sequencer (Applied Biosystems社製) を用いて解析した。明らかになった配列を配列番号1に示す。配列番号1で示される塩基配列は1002 baseのORFを持っている。ORFから予測されるアミノ酸配列 (333アミノ酸) を配列番号2に示す。予想アミノ酸配列は、G蛋白質共役型レセプターの特徴である7個の膜貫通ドメイン

ンと思われる疎水性領域を有していることから、本遺伝子がG蛋白質共役型レセプターをコードすることが解った。本遺伝子がコードするG蛋白質共役型レセプターをHORK1と名づけた。新規G蛋白質共役型レセプターHORK1はリガンドと対応のとれている公知のG蛋白質共役型レセプターファミリーとのホモロジーはそれぞれアミノ酸配列で30%以下であった。

## 【0034】(実施例2) 組織におけるヒト新規G蛋白質共役型レセプターファミリー遺伝子の発現分布

- 10 RT-PCR法により本発明のG蛋白質共役型レセプター遺伝子の発現分布を解析した。ヒトの各臓器(脳(扁桃体、尾状核、海馬、脳梁、黒質、小脳)、脊髄、下垂体、心臓、胎盤、肺、気管、肝臓、腎臓、脾臓、小腸、胃、脾臓、骨髄、胸腺、甲状腺、唾液腺、副腎、乳腺、前立腺、精巣、卵巣)由来のpoly A+ RNA (5μg) (Clontech社製) をDNase (Nippon Gene社製) を用い37 °Cで15分反応させた。DNase処理したpoly A+ RNAのうち4μgからMMLV Reverse Transcriptase (Clontech社製) で42 °Cで60分、94 °Cで5分順次反応させ、cDNAを合成した。
- 20 合成されたcDNAは800μlの滅菌水に溶解した。HORK1の発現分布は上記のヒトの各臓器のcDNAを錆型として、primerセットは配列番号5で示されるオリゴヌクレオチドと配列番号6で示されるオリゴヌクレオチドを用いた。PCRはPyrobest DNA polymerase (宝酒造社製) を用い5% DMSO存在下で98 °C (10秒) / 56 °C (30秒) / 72 °C (1分) のサイクルを30回繰り返した。また、内部標準としては上記のヒトの各臓器のcDNAを錆型として、HumanG3PDH Control Amplimer Set (Clontech社製) を用いて、同条件のPCRにてGlyceraldehyde-3-Phosphate Dehydrogenase (G3PDH) の遺伝子を増幅させた。反応産物は1% アガロースゲルにて電気泳動して解析した(図1)。HORK1の約400bpの増幅産物は脳(扁桃体、尾状核、海馬、脳梁、黒質)、脊髄、胎盤、脾臓、骨髄で検出された。その中でも、黒質、脊髄、脾臓が比較的強いシグナルであった。以上の結果より、HORK1は中枢神経系に関与する部位に発現していることが分かった。つまり、本G蛋白質共役型レセプターは黒質-線条体系に発現しており、その部位にはドパミナージックニューロンが存在することから、情動行動を制御する精神分裂病に係る疾患有用であることを示し、また、ドパミナージックニューロンの変性はパーキンソン病に係る疾患有用であることを示している。また、脊髄には痛覚の伝達に関わる部位があり、疼痛に係る疾患有用であることを示している。
- 30 【0035】(実施例3) 新規G蛋白質共役型レセプターファミリー蛋白質の発現の確認
- 40 ヒトHORK1を発現させるための発現ベクターとしてpEF-BOSを用いた。そのとき、ヒトHORK1のN末端にマーカー配列としてFLAG epitopeを融合するために、HORK1の蛋白質コーディング配列の5'末端に配列番号7で示されるオ
- 50

リゴヌクレオチドを挿入した。このように構築したプラスミドはそれぞれ、pEFBOS-FL-HORK1とした。このプラスミドを用いることで、ヒトHORK1のポリペプチドのN末端に配列番号8で示されるポリペプチドが融合したポリペプチドとして発現する。10cmシャーレに293-EBNA (In vitrogen社製) を $1 \times 10^6$ 細胞で播種して1日培養後、8 $\mu\text{g}$ のpEF-BOS-FL-HORK1およびpEF-BOS-FL (空ベクター) をFuGENE6 (Boeringer Mannheim社製) を用いて遺伝子導入した。遺伝子導入後、一日培養した細胞を回収、洗浄後、1% BSA/PBSに懸濁した。これを氷温遮光下におき、 $5 \times 10^5$ 細胞毎に1次抗体として最終濃度2 $\mu\text{g}/\text{ml}$ となるようにマウス抗FLAGモノクローナル抗体 (M2; Sigma社) または通常マウスIgG (Zymed社製) を添加、1時間インキュベートした。PBS洗浄後、さらに2次抗体としてFITC標識ヤギ抗マウスIg (Biosource社製) を200倍希釈になるように加え、氷温遮光下で1時間インキュベートした。蛍光強度の測定はEPICS= XL-MCL (COULTER社製) で行った(図2)。図2は10,000個の細胞を測定した結果を示しており、縦軸が細胞数、横軸が蛍光強度を表す。HORK1導入細胞に対して1次抗体にM2を用いた場合のみ、FITC蛍光強度上昇方向にシフトしていることから、FLAGエピトープを含むHORK1が細胞膜表面上に発現して\*

## SEQUENCE LISTING

&lt;110&gt; Yamanouchi Pharmaceutical Co., Ltd.

&lt;120&gt; 新規なG蛋白質共役型レセプター

&lt;130&gt; 0000002898

&lt;160&gt; 8

&lt;170&gt; PatentIn Ver. 2.0

&lt;210&gt; 1

&lt;211&gt; 1002

&lt;212&gt; DNA

&lt;213&gt; Homo sapiens

&lt;400&gt; 1

```

atgaacacca cagtgtatgca aggcttcaac agatctgagc ggtccccag agacactcg 60
atagtacagc tggattccccc agccctctac acagtggttt tcctgaccgg catcctgctg 120
aataactttgg ctctgtgggt gtttggcac atccccagct cctccacctt catcatctac 180
ctcaaaaaaca ctttgggtggc cgacttgata atgacactca tgcttccttt caaaatcctc 240
tctgactcac acctggcacc ctggcagctc agagctttg tgtgtcggtt ttcttcggtg 300
atattttatg agaccatgta tgtggcatc gtgtgttag ggctcatagc ctttgacaga 360
ttcctcaaga tcatcagacc tttgagaaat attttctaa aaaaacctgt ttttgc 420
acggtcctaa tcttcatctg gttcttttg ttcttcatct ccctgcca 480
agcaacaagg aagcaacacc atcgtctgtg aaaaagtgtg cttccctaaa gggccctctg 540
ggcgtgaaat ggcataat ggtaaataac atatgccgt ttatttctg gactgtttt 600
atcctaattgc ttgtgtttt tgtggattt gcaaaaaaag tatatgattc ttatagaaag 660
tccaaaagta aggacagaaa aaacaacaaa aagctggaag gcaaaagtatt tgtgtcg 720
gctgtcttct ttgtgtgtt tgctccattt cattttgcca gagttccata tactcacagt 780
caaaccacca ataagactga ctgttagactg caaaatcaac tgtttattgc taaagaaaca 840
actctttttt tggcagcaac taacattgt atggatccct taatatacat attcttatgt 900
aaaaaaattca cagaaaaagct accatgtatg caagggagaa agaccacagc atcaagccaa 960

```

\*いることが確認できた。

## 【0036】

【発明の効果】本発明のG蛋白質共役型レセプターは中枢神経系疾患(特に、精神分裂病、パーキンソン病、疼痛)の予防・治療剤のスクリーニングツールとして有用である。具体的には、本発明のG蛋白質共役型レセプターと被験物質を接触させることにより、該G蛋白質共役型レセプターの活性を修飾する物質(化合物、ペプチド及び抗体)をスクリーニングし、新たな医薬、特に、いまだ完全にコントロールすることができない中枢神経系疾患の予防・治療剤をスクリーニングすることを意味する。また、本発明のG蛋白質共役型レセプターをコードする遺伝子またはレセプターに対する抗体は、該遺伝子の変異、または、発現異常により生じうる疾患の罹患性の診断のためのツールとしての有用である。

## 【0037】

## 【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、HORK1のヒト臓器についての発現分布の解析の結果を示す。

【図2】図2は、HORK1の発現を確認した結果を示す。

## 【配列表】

1 9

gaaaatcata gcagtcagac agacaacata accttaggct ga 1002

&lt;210&gt; 2

&lt;211&gt; 333

&lt;212&gt; PRT

&lt;213&gt; Homo sapiens

&lt;400&gt; 2

Met Asn Thr Thr Val Met Gln Gly Phe Asn Arg Ser Glu Arg Cys Pro

1 5 10 15

Arg Asp Thr Arg Ile Val Gln Leu Val Phe Pro Ala Leu Tyr Thr Val

20 25 30

Val Phe Leu Thr Gly Ile Leu Leu Asn Thr Leu Ala Leu Trp Val Phe

35 40 45

Val His Ile Pro Ser Ser Ser Thr Phe Ile Ile Tyr Leu Lys Asn Thr

50 55 60

Leu Val Ala Asp Leu Ile Met Thr Leu Met Leu Pro Phe Lys Ile Leu

65 70 75 80

Ser Asp Ser His Leu Ala Pro Trp Gln Leu Arg Ala Phe Val Cys Arg

85 90 95

Phe Ser Ser Val Ile Phe Tyr Glu Thr Met Tyr Val Gly Ile Val Leu

100 105 110

Leu Gly Leu Ile Ala Phe Asp Arg Phe Leu Lys Ile Ile Arg Pro Leu

115 120 125

Arg Asn Ile Phe Leu Lys Lys Pro Val Phe Ala Lys Thr Val Ser Ile

130 135 140

Phe Ile Trp Phe Phe Leu Phe Phe Ile Ser Leu Pro Asn Met Ile Leu

145 150 155 160

Ser Asn Lys Glu Ala Thr Pro Ser Ser Val Lys Lys Cys Ala Ser Leu

165 170 175

Lys Gly Pro Leu Gly Leu Lys Trp His Gln Met Val Asn Asn Ile Cys

180 185 190

Gln Phe Ile Phe Trp Thr Val Phe Ile Leu Met Leu Val Phe Tyr Val

195 200 205

Val Ile Ala Lys Lys Val Tyr Asp Ser Tyr Arg Lys Ser Lys Ser Lys

210 215 220

Asp Arg Lys Asn Asn Lys Lys Leu Glu Gly Lys Val Phe Val Val Val

225 230 235 240

Ala Val Phe Phe Val Cys Phe Ala Pro Phe His Phe Ala Arg Val Pro

245 250 255

Tyr Thr His Ser Gln Thr Asn Asn Lys Thr Asp Cys Arg Leu Gln Asn

260 265 270

Gln Leu Phe Ile Ala Lys Glu Thr Thr Leu Phe Leu Ala Ala Thr Asn

275 280 285

Ile Cys Met Asp Pro Leu Ile Tyr Ile Phe Leu Cys Lys Lys Phe Thr

290 295 300

Glu Lys Leu Pro Cys Met Gln Gly Arg Lys Thr Thr Ala Ser Ser Gln

305 310 315 320

Glu Asn His Ser Ser Gln Thr Asp Asn Ile Thr Leu Gly

325 330

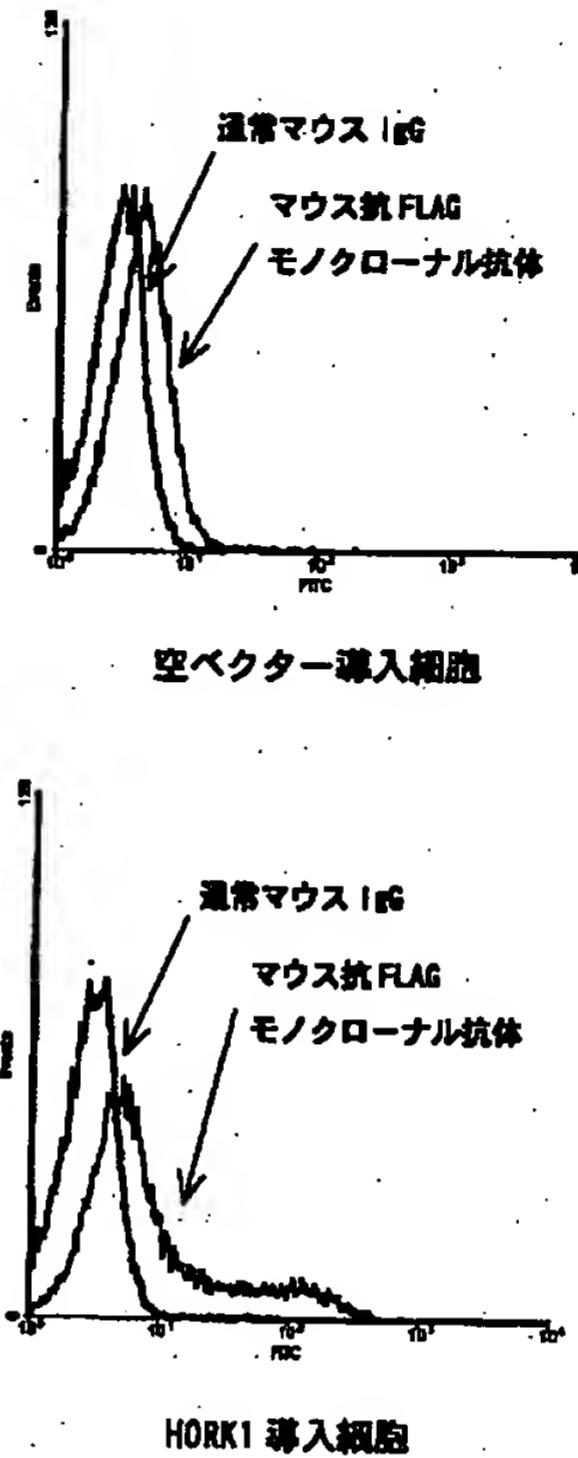
&lt;210&gt; 3

21		
<211> 39		
<212> DNA		
<213> Homo sapiens		
<400> 3		
gggtctagaa tgaacaccac agtgatgcaa ggcttcaac	39	
<210> 4		
<211> 37		
<212> DNA		
<213> Homo sapiens		
<400> 4		
ccctctagat cagcctaagg ttatgttgc tgtctga	37	
<210> 5		
<211> 40		
<212> DNA		
<213> Homo sapiens		
<400> 5		
ctgtccttac tttggactt tctataagaa tcatataactt	40	
<210> 6		
<211> 40		
<212> DNA		
<213> Homo sapiens		
<400> 6		
ctggcacccct ggcagctcag agctttgcg tgtcgaaaa	40	
<210> 7		
<211> 36		
<212> DNA		
<213> Homo sapiens		
<400> 7		
atggactaca aggacgacga tgacaaggaa atcctg	36	
<210> 8		
<211> 12		
<212> PRT		
<213> Homo sapiens		
<400> 8		
Met Asp Tyr Lys Asp Asp Asp Asp Lys Gly Ile Leu		
1	5	10

【図1】



【図2】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7 識別記号

C 1 2 N 1/21  
5/10  
C 1 2 P 21/02  
G 0 1 N 33/15  
33/50  
// C 1 2 P 21/08  
(C 1 2 P 21/02  
C 1 2 R 1:91)

F I

C 1 2 N 1/21  
C 1 2 P 21/02  
G 0 1 N 33/15  
33/50  
C 1 2 P 21/08  
C 1 2 N 5/00

テマコト' (参考)

C  
Z  
Z  
A

(72) 発明者 杉本 貴

茨城県つくば市御幸が丘21 山之内製薬株  
式会社内

(72) 発明者 斎藤 哲

茨城県つくば市御幸が丘21 山之内製薬株  
式会社内

(72) 発明者 蒲原 正純

茨城県つくば市御幸が丘21 山之内製薬株  
式会社内

F ターム(参考) 2G045 AA34 AA40 CB01 CB21 DA13  
DA36 FB03  
4B024 AA01 BA63 CA04 DA02 EA04  
GA14 HA01 HA15  
4B064 AG20 AG27 CA10 CA19 CA20  
CC24 CE02 CE04 CE06 CE07  
CE09 CE11 CE12 DA01 DA08  
DA13  
4B065 AA90X AA93Y AB01 AC14  
BA03 BA25 BB01 BD25 CA24  
CA44  
4H045 AA11 AA20 AA30 CA40 DA50  
DA76 DA86 EA21 EA22 EA50  
FA72 FA74 GA06 GA10 GA21

L Number	Hits	Search Text	DB	Time stamp
7	2	200053742.pn.	USPAT; US-PGPUB; EPO; JPO; DERWENT	2002/11/29 14:30
13	3	2001054389.pn.	USPAT; US-PGPUB; EPO; JPO; DERWENT	2002/11/29 14:31
19	3	2001029083.pn.	USPAT; US-PGPUB; EPO; JPO; DERWENT	2002/11/29 14:31
25	4	Didier near communi.in. or Nathalie near Suarez.in. or Michael near Detheux.in.	USPAT; US-PGPUB; EPO; JPO; DERWENT	2002/11/29 14:35
31	0	GPR86	USPAT; US-PGPUB; EPO; JPO; DERWENT	2002/11/29 14:35
37	0	GPCR? and method adj1 of adj1 screening	USPAT; US-PGPUB; EPO; JPO; DERWENT	2002/11/29 14:37

	U	1	Document ID	Issue Date	Pages	Title	Current OR
1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	US 20020035734 A1	20020321	20	G-COUPLED RECEPTOR SHOWING SELECTIVE AFFINITY FOR ATP	800/8
2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	US 20020142988 A1	20021003		G-coupled receptor showing selective affinity for ATP	514/44
3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	WO 9719170 A1	19970529	58	RECEPTOR AND NUCLEIC ACID MOLECULE ENCODING SAID RECEPTOR	
4	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	WO 9902675 A1	19990121		G-COUPLED RECEPTOR SHOWING SELECTIVE AFFINITY FOR ATP	

	Current XRef	Retrieval Classif	Inventor	S	C	P	2	3	4	5
1	435/320.1; 435/325; 435/69.1; 436/6; 536/23.1; 536/24.33		COMMUNI, DIDIER et al.	<input type="checkbox"/>						
2	435/320.1; 435/325; 435/6; 435/69.1; 530/350; 536/23.5		Communi, Didier et al.	<input type="checkbox"/>						
3			COMMUNI, DIDIER et al.	<input type="checkbox"/>						
4			COMMUNI, DIDIER et al.	<input type="checkbox"/>						

	<b>Image Doc. Displayed</b>	<b>PT</b>
1	US 20020035734	<input type="checkbox"/>
2		<input type="checkbox"/>
3	WO 9719170 A1	<input type="checkbox"/>
4		<input type="checkbox"/>

FILE 'HOME' ENTERED AT 14:41:44 ON 29 NOV 2002

=> file medline			
COST IN U.S. DOLLARS		SINCE FILE	TOTAL
		ENTRY	SESSION
FULL ESTIMATED COST		1.05	1.05

FILE 'MEDLINE' ENTERED AT 14:44:35 ON 29 NOV 2002

FILE LAST UPDATED: 23 NOV 2002 (20021123/UP). FILE COVERS 1958 TO DATE.

On June 9, 2002, MEDLINE was reloaded. See HELP RLOAD for details.

MEDLINE thesauri in the /CN, /CT, and /MN fields incorporate the MeSH 2002 vocabulary. Enter HELP THESAURUS for details.

If you received SDI results from MEDLINE on October 8, 2002, these may have included old POPLINE data and in some cases duplicate abstracts. For further information on this situation, please visit NLM at:  
[http://www.nlm.nih.gov/pubs/techbull/so02/so02\\_popline.html](http://www.nlm.nih.gov/pubs/techbull/so02/so02_popline.html)

To correct this problem, CAS will remove the POPLINE records from the MEDLINE file and process the SDI run dated October 8, 2002 again.

Customers who received SDI results via email or hard copy prints on October 8, 2002 will not be charged for this SDI run. If you received your update online and displayed answers, you may request a credit by contacting the CAS Help Desk at 1-800-848-6533 in North America or 614-447-3698 worldwide, or via email to [help@cas.org](mailto:help@cas.org)

This file contains CAS Registry Numbers for easy and accurate substance identification.

```
=> s (communi, D.? or communi D.?)/au
      0 COMMUNI, D.??/AU
      0 COMMUNI D.??/AU
L1      0 (COMMUNI, D.? OR COMMUNI D.?)/AU

=> s (Suarez, N.? or Suarez N.?)/au
      4 SUAREZ, N.??/AU
      4 SUAREZ N.??/AU
L2      4 (SUAREZ, N.? OR SUAREZ N.?)/AU

=> d L2 1-4
```

```
L2  ANSWER 1 OF 4      MEDLINE
AN  2002396565      IN-PROCESS
DN  22140661      PubMed ID: 12144765
TI  The Atlas mountains as a biogeographical divide in North-West Africa: evidence from mtDNA evolution in the Agamid lizard Agama impalearis.
AU  Brown R P; Suarez N M; Pestano J
CS  School of Biological and Earth Sciences, Liverpool John Moores University, Byrom St., L3 3AF, Liverpool, UK.
SO  MOLECULAR PHYLOGENETICS AND EVOLUTION, (2002 Aug) 24 (2) 324-32.
     Journal code: 9304400. ISSN: 1055-7903.
CY  United States
DT  Journal; Article; (JOURNAL ARTICLE)
LA  English
FS  IN-PROCESS; NONINDEXED; Priority Journals
ED  Entered STN: 20020730
     Last Updated on STN: 20020730
```

L2 ANSWER 2 OF 4 MEDLINE  
AN 2001348693 MEDLINE  
DN 21306535 PubMed ID: 11412378  
TI Phylogeography of Cape Verde Island skinks (Mabuya).  
AU Brown R P; **Suarez N M**; Smith A; Pestano J  
CS School of Biological & Earth Sciences, Liverpool John Moores University, Liverpool, UK.  
SO MOLECULAR ECOLOGY, (2001 Jun) 10 (6) 1593-7.  
Journal code: 9214478. ISSN: 0962-1083.  
CY England: United Kingdom  
DT Journal; Article; (JOURNAL ARTICLE)  
LA English  
FS Priority Journals  
OS GENBANK-AJ304993; GENBANK-AJ304994; GENBANK-AJ304995; GENBANK-AJ304996;  
GENBANK-AJ304997; GENBANK-AJ304998; GENBANK-AJ304999; GENBANK-AJ305000;  
GENBANK-AJ305001; GENBANK-AJ305002; GENBANK-AJ305003; GENBANK-AJ305004;  
GENBANK-AJ305005; GENBANK-AJ305006; GENBANK-AJ305007; GENBANK-AJ305008;  
GENBANK-AJ305009; GENBANK-AJ305010; GENBANK-AJ305011; GENBANK-AJ305012;  
GENBANK-AJ305013; GENBANK-AJ305014; GENBANK-AJ305015; GENBANK-AJ305016;  
GENBANK-AJ305017; GENBANK-AJ305018  
EM 200108  
ED Entered STN: 20010806  
Last Updated on STN: 20010806  
Entered Medline: 20010802

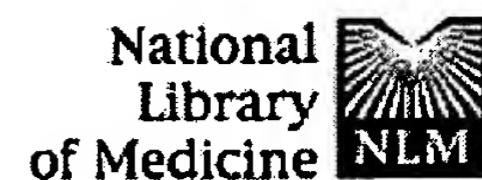
L2 ANSWER 3 OF 4 MEDLINE  
AN 97400355 MEDLINE  
DN 97400355 PubMed ID: 9257849  
TI Yersinia invasin, a bacterial betal-integrin ligand, is a potent inducer of lymphocyte motility and migration to collagen type IV and fibronectin.  
AU Arencibia I; **Suarez N C**; Wolf-Watz H; Sundqvist K G  
CS Department of Clinical Immunology, University of Umea, Sweden.  
SO JOURNAL OF IMMUNOLOGY, (1997 Aug 15) 159 (4) 1853-9.  
Journal code: 2985117R. ISSN: 0022-1767.  
CY United States  
DT Journal; Article; (JOURNAL ARTICLE)  
LA English  
FS Abridged Index Medicus Journals; Priority Journals  
EM 199708  
ED Entered STN: 19970908  
Last Updated on STN: 19970908  
Entered Medline: 19970828

L2 ANSWER 4 OF 4 MEDLINE  
AN 60083416 MEDLINE  
DN 60083416  
TI Action of a derivate of iso-indoline on the arterial pressure of 27 hypertensive patients.  
AU LOPEZ SALGADO A; DE S O L D A T I L; **SUAREZ N A V A S A**  
SO Prensa Med Argent, (1961 Feb 10) 48 353-6.  
DT Journal  
LA Spanish  
FS OLDMEDLINE  
EM 196112  
ED Entered STN: 19990716  
Last Updated on STN: 19990716

=> s GPR86  
L3 2 GPR86  
=> d L3 1-2

L3 ANSWER 1 OF 2 MEDLINE  
AN 2001646967 MEDLINE  
DN 21538899 PubMed ID: 11546776  
TI Identification of a novel human ADP receptor coupled to G(i).  
AU Communi D; Gonzalez N S; Detheux M; Brezillon S; Lannoy V; Parmentier M;  
Boeynaems J M  
CS Institute of Interdisciplinary Research, School of Medicine, Universite  
Libre de Bruxelles, 808 Route de Lennik, 1070 Brussels, Belgium..  
communid@ulb.ac.be  
SO JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY, (2001 Nov 2) 276 (44) 41479-85.  
Journal code: 2985121R. ISSN: 0021-9258.  
CY United States  
DT Journal; Article; (JOURNAL ARTICLE)  
LA English  
FS Priority Journals  
OS GENBANK-AF406692  
EM 200112  
ED Entered STN: 20011112  
Last Updated on STN: 20020123  
Entered Medline: 20011207

L3 ANSWER 2 OF 2 MEDLINE  
AN 2001187242 MEDLINE  
DN 21172992 PubMed ID: 11273702  
TI An expressed sequence tag (EST) data mining strategy succeeding in the  
discovery of new G-protein coupled receptors.  
AU Wittenberger T; Schaller H C; Hellebrand S  
CS Zentrum fur Molekulare Neurobiologie, Martinistr. 52, Hamburg, 20246,  
Germany,. wittenbe@uke.uni-hamburg.de  
SO JOURNAL OF MOLECULAR BIOLOGY, (2001 Mar 30) 307 (3) 799-813.  
Journal code: 2985088R. ISSN: 0022-2836.  
CY England: United Kingdom  
DT Journal; Article; (JOURNAL ARTICLE)  
LA English  
FS Priority Journals  
OS GENBANK-AF237762; GENBANK-AF237763; GENBANK-AF272948; GENBANK-AF295365;  
GENBANK-AF295366; GENBANK-AF295367; GENBANK-AF295368  
EM 200104  
ED Entered STN: 20010425  
Last Updated on STN: 20010425  
Entered Medline: 20010419



PubMed

Nucleotide

Protein

Genome

Structure

PopSet

Taxonomy

OMIM

Bo

Search  for  

Limits

Preview/Index

History

Clipboard

Details

About Entrez

Text Version

Entrez PubMed

Overview

Help | FAQ

Tutorial

New/Noteworthy

E-Utilities

PubMed Services

Journals Database

MeSH Browser

Single Citation Matcher

Batch Citation Matcher

Clinical Queries

LinkOut

Cubby

Related Resources

Order Documents

NLM Gateway

TOXNET

Consumer Health

Clinical Alerts

ClinicalTrials.gov

PubMed Central

Privacy Policy

 1: Gene 2001 Sep 5;275(1):83-91

Related Articles, Links

ELSEVIER SCIENCE  
FULL-TEXT ARTICLE**Discovery and mapping of ten novel G protein-coupled receptor genes.****Lee DK, Nguyen T, Lynch KR, Cheng R, Vanti WB, Arkhitko O, Lewis T, Evans JF, George SR, O'Dowd BF.**

Department of Pharmacology, University of Toronto, Toronto, Ontario, M5S 1A8, Canada.

We report the identification, cloning and tissue distributions of ten novel human genes encoding G protein-coupled receptors (GPCRs) GPR78, GPR80, GPR81, GPR82, GPR93, GPR94, GPR95, GPR101, GPR102, GPR103 and a pseudogene, psi GPR79. Each novel orphan GPCR (oGPCR) gene was discovered using customized searches of the GenBank high-throughput genomic sequences database with previously known GPCR-encoding sequences. The expressed genes can now be used in assays to determine endogenous and pharmacological ligands. GPR78 shared highest identity with the oGPCR gene GPR26 (56% identity in the transmembrane (TM) regions). psi GPR79 shared highest sequence identity with the P2Y(2) gene and contained a frame-shift truncating the encoded receptor in TM5, demonstrating a pseudogene. GPR80 shared highest identity with the P2Y(1) gene (45% in the TM regions), while GPR81, GPR82 and GPR93 shared TM identities with the oGPCR genes HM74 (70%), GPR17 (30%) and P2Y (5) (40%), respectively. Two other novel GPCR genes, GPR94 and GPR95, encoded a subfamily with the genes encoding the UDP-glucose and P2Y(12) receptors (sharing >50% identities in the TM regions). GPR101 demonstrated only distant identities with other GPCR genes and GPR102 shared identities with GPR57, GPR58 and PNR (35-42% in the TM regions). GPR103 shared identities with the neuropeptide FF 2, neuropeptide Y2 and galanin GalR1 receptors (34-38% in the TM regions). Northern analyses revealed GPR78 mRNA expression in the pituitary and placenta and GPR81 expression in the pituitary. A search of the GenBank databases with the GPR82 sequence retrieved an identical sequence in an expressed sequence tag (EST) partially encoding GPR82 from human colonic tissue. The GPR93 sequence retrieved an identical, human EST sequence from human primary tonsil B-cells and an EST partially encoding mouse GPR93 from small intestinal tissue. GPR94 was expressed in the frontal cortex, caudate

putamen and thalamus of brain while GPR95 was expressed in the human prostate and rat stomach and fetal tissues. GPR101 revealed mRNA transcripts in caudate putamen and hypothalamus. GPR103 mRNA signals were detected in the cortex, pituitary, thalamus, hypothalamus, basal forebrain, midbrain and pons.

PMID: 11574155 [PubMed - indexed for MEDLINE]

---

[Display](#) [Abstract](#) [▼](#) [Sort](#) [▼](#) [Save](#) [Text](#) [Clip](#) [Add](#) [Order](#)

[Write to the Help Desk](#)

[NCBI](#) | [NLM](#) | [NIH](#)

[Department of Health & Human Services](#)

[Freedom of Information Act](#) | [Disclaimer](#)

i686-pc-linux-gnu Oct 31 2002 15:09:13

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-29083

(P2001-29083A)

(43)公開日 平成13年2月6日 (2001.2.6)

(51)Int.Cl.*	識別記号	F I	テーマコード*(参考)
C 12 N 15/09	Z NA	C 12 N 15/00	Z NAA 2 G 0 4 5
A 6 1 K 38/00		A 6 1 K 39/395	D 4 B 0 2 4
39/395			N 4 B 0 6 3
		45/00	4 B 0 6 4
45/00		A 6 1 P 25/04	4 B 0 6 5
		審査請求 未請求 請求項の数7 OL (全 14 頁) 最終頁に続く	

(21)出願番号 特願平11-209918

(71)出願人 000006677

山之内製薬株式会社

東京都中央区日本橋本町2丁目3番11号

(22)出願日 平成11年7月23日 (1999.7.23)

(72)発明者 高崎 淳

茨城県つくば市御幸が丘21 山之内製薬株式会社内

(72)発明者 松本 光之

茨城県つくば市御幸が丘21 山之内製薬株式会社内

(74)代理人 100089200

弁理士 長井 省三 (外2名)

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 新規なG蛋白質共役型レセプター

(57)【要約】

【課題】創薬標的分子としての可能性が非常に高い、新規G蛋白質共役型レセプターファミリーをコードする遺伝子を単離・同定し、それらの活性を修飾する物質を探索するために必要となる組換え蛋白の提供。

【解決手段】中枢神経系に発現している新規なG蛋白質共役型レセプターをコードする遺伝子を単離し、全長ORF配列を決定して、該G蛋白質共役型レセプターファミリーを発現させた。該レセプターの遺伝子を含むベクター、該ベクターを含む宿主細胞、該宿主細胞を用いた同G蛋白質共役型レセプターファミリーの製造法、及び、該G蛋白質共役型レセプターファミリー及び該G蛋白質共役型レセプターファミリーを修飾する化合物、ペプチド及び抗体のスクリーニング法を提供する。